

今めでこんんな人たちと出合つてしまひたけれど、

まだ出合つたことのない人、

ところのがこの世界には、まだまだ、たくわんこんて、  
その中には出合つたひといじ激しい、

とても素敵な、

うまじ酒の酌み交わせぬ、

ものかっこく趣味の合ひ、  
ずっと一緒にいても疲れない、

よつな、

そつこり人たちがたくさんたくさんのかもしれなくして。

そんな人たちと、どうにかして、  
いつか、ばつたり。

期待して、田を閉じる。

コーヒーを飲みながら。

期待して、

ミルクティーを飲みながら。

田を閉じる。

紅葉が好き。

イチョウとか、もみじとか、カラマツ、カヒト、ハナノバキ

そういうカラフルになつた葉っぱと洋服の色を合わせて外を歩くのが好き。

だつたのに、

こないだ自転車に乗つて買い物に行ひと思つたら、前カゴにつまづいてイチョウの葉が詰まつてい  
て、あ、わい、

今年の紅葉もだいたい終わつてしまふ、  
ええ——。

て、やう言われた心地がして、  
ええ——つて。ええ——つてなつて、大変、遺憾だった。

よく見れば、公園とか、道路とか、ガードレールとか、あおぞらとか、スナックの看板とか、そん  
なものたちの周りも落ちた葉っぱでこいつになつていて、それに私はうかつと気がつかず日々を

過ごしてきたわけで、ひとほど左様に、近頃、あたしのアンテナは大変鈍つてしまふのだ。  
よろこべな。

もしかすると、結構、思つたり、壊れてしまつてしまふのかもしれない。

あたしのアントナは。  
もういない。大変なこと。

「ねせ木当じ当たつ前の」となたがい、出でた人とのついでにほほ笑ひながら、「ルイドあか……」

出でたくもなご人と出でてしまったおねだりだ。

「露骨……」

実感としている人のうちの方が多いからながい、それでか、露骨といふ意味のせいには、出でた瞬間に電気が走ったみたいに「わあっ」になつて、一瞬で好きになつたりする人がいる。

らしく。

男の口でも、女の口でも。  
女人の人でも、男人の人でも。

一瞬で。

好きになつたり。

私にも、なんとなくなればわかる。

いいなつて。すげえなつて。

会つたその日に思つたような人はいる。いたした。確かに。うそ。

でも、ルーナーは人生の中でせせりと無くて、ところが特に最近せせりと無くて、こゝほじ無くて、それは例の「あたしのアントナ遭難問題」が原因のひとつでもないとは間違はないのだけれど、だからルーナー、

そういう、

いこなつて。すげえなつて。

思つちやうぶつなルーナー「まつたり」「があゆ」と、私はつむぎみたてかねりやつて、「あなたと出でてつづるへラッパー。父さんやれとおりがとつてなことを語つてしまつたのだ。

今まで歩いてきた、向のくントラジもなご、いの道に感謝を一してなじとを語つてしまつたのだ。

大ゲサ。

そいつが。

大ゲサ。

なんだよねえ。

あとあとになつてよべがてみると、

「じつかしてたな、おん封は、バッカじやねえの俺」

トヨウヒリムシテモシテ、やつぱり中々、世の中んなじみは出でてなつ。

でも、

かえつて、

むしり、

逆に?

最初会った時には、

なーんかつまじないヤツ、

としか思っていなかつた人が、 だんだんだんだんだ、

すつぜん面白く、

ウケる

もう大好き

ヒ変化してこべ時むあねけで、

だんだんだんだんだん、

の出会いも、結構あなどれない。

思えは紅葉もある田突然紅葉になるわけではなく、 だんだんだんだん、 紅葉になつてこべねけで、  
こいつだー。 と思つた奴がちつとゆ「こいつ」じゃなくて、 こいつじやねーだら、 と思つた奴が意  
外とだんだん、「こいつ」になつたうあねけだ。  
せい。

これらの現象を総合して考へてみると、 もしかしてひょいとあぬと、 あたしにはかなり「人を見る  
目がない」 ことになるのかもしない。  
なりはしなじだらうか?

うーん。

そうかもしない。 カもしない。

もしカしい、

ひょいとあると、

そつかもしない。 カもしない。

いや、 きつとゆうだ。

もはや認めざるをえなし。

「あたしには、 人を見る田が、 ないみたい」  
はは。

いや、 笑い事じゃない。

やつぐ。 じじで落として来たんだらう。 あたしの「人を見る田」。

そもそも人を見る田つじどうにかして手に入れられたものなんだらうか。

人生経験とかいつぱい積んで、 人間觀察とかいつぱいして、 あるごと、 どつかに売ついたら結構い  
い値段でも買つのに。

人を見る田。

買つな。 買つちやうな、 じりや。

一十七万円でないか。

なせなり、普通運転免許證よつて私は人を見ね田が欲しいから。

去年せつから免許をとったところに、一回、車庫入れに失敗してプロツク場にお尻をいすつて以來、今ハンドルを握つてなこじり。一日にしてペーパードライバーになつた私が今後、車を乗るタマノラゲを見つかる。一生無事ドライブ。

そつあれば、

無傷の私の運転免許は、めでたくホールド免許にならんじよ。

そつすれば、

無傷の私の運転免許は、何の価値もない、ホールド免許にならんじよ。

「人を見ね田」は、えごじのカツツを入れたみたいな鈍い赤色をして、あたしに賣つてやうの口をじつと待つてゐる。古びた雜貨屋さんの店頭で、在庫処分で並べられた薄汚れたロゴの中央にはあつて、何かの間違いじゃないですか？ つし感じで「一十七万円」とこの値札が堂々と貼つてある。

「人を見ね田。一十七万円だ」

そんなばすはなし。

でも、

バカげてぬ。

でも、

んなアホな。

でも、あつたのものと聞く。

落つこつたらきつと拾ひ。

あーあ。

はーあ。

はあ。

ハー。ハー。

息が白い。

雲が遠い。

風が冷たい。

空氣が冷たじと硬くしてのよつと癪い。

マスクでもしようか。

マスクをすると、鼻から入る空氣に適度な湿氣が保たれて喉がうるおこ、風邪の予防にもなり、しかもメイクをしていなぐくてもあんまり哭つ込まれない、といふ事がいつせつあるのです。

あと、なんか落ち着く。うんうん。

電車に乗りのときは、マスクと帽子とメガネ、それにフードもがつたり被つて一番端っこの座席に座りたい。みんな死ね。とか思ひながら銀色のポールに寄りかかって、じつづつ鋭氣を養いたい。

マスクも邪魔。

帽子もダテメガネもフードもぜんぶ邪魔。

だけど、邪魔なものたちが私を守ってくれる。  
だからちよつと好き。

邪魔だけど好き。

好きだけじ邪魔。

邪魔するなし！

ジカジカー！

いつか、ぱつたり、

できなじだろつか。

今までいろんな人たちと出会つてたけれど、  
まだ出会つたことのない人、

というのがこの世界には、まだまだ、たくさんいて、  
その中には出会つたらきっと楽しい、とても素敵な、  
うまい酒の飲み交わせる、

ものすこしく趣味の合ひ、  
ずっと一緒にいても疲れない、

ような、

そういう人たちがたくさんたくさんいるのかもしれないと。

そんな人たちと、どうにかして、  
いつか、ぱつたり、期待して。

目を閉じる。

帽子とダテメガネとマスクとフードを外して、  
ゆづく、

暖かい「ヒーヒー」を飲みながら。

いつか、ぱつたり。

期待して。

目を閉じる。

期待して。

目を。